

本資料は、経済産業記者会、経済産業省ペンクラブ、農政クラブ、農林記者会、文部科学記者会、科学記者会、厚生労働記者会、重工業研究会、本町記者会に配布しています。



一般財団法人バイオインダストリー協会

報道関係者 各位

第 10 回「バイオインダストリー奨励賞」受賞者決定！

（一財）バイオインダストリー協会（会長：吉田稔）は、第 10 回「バイオインダストリー奨励賞」の受賞者 12 名を、下記のとおり決定しました。

「バイオインダストリー奨励賞」は、2017 年に、（一財）バイオインダストリー協会が 30 周年を迎えたことを機に、次の 30 年を見据えて“最先端の研究が世界を創るーバイオテクノロジーの新時代ー”をスローガンに、バイオインダストリー大賞と共にスタートしました。「奨励賞」は、バイオサイエンス、バイオテクノロジーに関連する応用を指向した研究に携わる有望な若手研究者とその業績を表彰するものです。

受賞者の選考は、東京大学 大学院工学系研究科長・工学部長 教授 津本浩平氏を選考委員長とする 24 名の委員からなる選考委員会により厳正に行われました。受賞者にはそれぞれ副賞 30 万円が贈呈されます。

なお、表彰式・受賞記念講演会は来たる 10 月 7 日（水）、国際的なバイオイイベント「BioJapan 2026」の会場（パシフィコ横浜）にて行われます。詳細につきましては、追ってご案内いたします。

記

＜バイオインダストリー奨励賞受賞者（12 名）＞

（五十音順、敬称略）

受賞者	所属・役職	受賞研究課題
井手口 拓郎	東京大学 新領域創成科学研究科 教授	赤外フォトサーマル顕微鏡によるラベルフリー生細胞化学イメージングの開拓
内田 紀之	東京農工大学 工学部 特任講師	リン脂質膜変形を利用した高機能化粧品の開発
大上 雅史	東京科学大学 情報理工学院 准教授	モダリティを横断する創業支援のための計算分子設計技術に関する研究
押木 守	北海道大学 大学院工学研究院 准教授	Anammox 細菌の機能解明に基づくテララーメイド型窒素除去プロセスの創出と実装
熊倉 直祐	理化学研究所 環境資源科学研究センター 上級研究員	植物病原糸状菌アプレッソリアの膨圧発生機構の解明と病害制御標的の創出
齋藤 雄太朗	東京科学大学 生命理工学院 准教授	多価不飽和脂肪酸の固相合成法の開発と新しい抗炎症脂肪酸の発見
坂本 雅行	京都大学 大学院生命科学研究科 准教授	生体細胞内シグナル計測のための高感度蛍光プローブの開発

佐藤 雄介	東北大学 理学研究科 准教授	脂質膜構造を標的とするナノベシクル横断的解析・診断技術の創出
高橋 洋平	名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所 特任准教授	植物の気孔における二酸化炭素感知装置の同定とその活用
遠山 周吾	藤田医科大学東京 先端医療研究センター 教授	代謝制御を基盤とした心筋細胞の大量製造と再生医療の実現
中野 祥吾	静岡県立大学 食品栄養科学部 准教授	進化アルゴリズム×生成 AI による高機能化タンパク質再設計基盤の確立
PRADIPTA AMBARA	東京科学大学 物質理工学院 助教	アクロレイン標的型プロドラッグ技術によるがん治療の創出と産業化への展開

＜奨励賞選考委員会＞

（五十音順、敬称略）

委員長	津本 浩平	東京大学 大学院工学系研究科長・工学部長 教授
副委員長	五十嵐 圭日子	東京大学 大学院農学生命科学研究科 副研究科長 教授
	菅原 達也	京都大学 大学院農学研究科 教授
	吉野 知子	東京農工大学 大学院工学研究院・生命機能科学部門 教授
委員	間 和彦	(株)ニッポン 中央研究所 執行役員 所長
	井埜 章	塩野義製薬(株)ワクチン事業本部 ワクチン生産技術研究所 研究所長
	大河内 美奈	東京科学大学 物質理工学院 教授
	國澤 純	(国研)医薬基盤・健康・栄養研究所 ヘルス・メディカル微生物研究センター 副所長/センター長
	栗原 宏征	東レ(株) リサーチフェロー 先端融合研究所 兼 新事業開発部門 リサーチダイレクター
	桑原 明日香	(国研)科学技術振興機構 研究開発戦略センター フェロー
	後藤 祐輔	住友ファーマ(株)R&D 戦略企画部 創薬企画グループ グループマネージャー
	杉山 洋	アサヒクオリティードイノベーションズ(株) 社長付担当部長 兼 経営企画部
	鈴木 道生	東京大学 大学院農学生命科学研究科 教授
	鈴木 亮	富士フイルム(株)バイオサイエンス&エンジニアリング研究所 統括マネージャー
	諏訪 旭	Meiji Seika ファルマ(株)研究開発本部 研究開発戦略部長
	高澄 耕次	サッポロビール(株)マーケティング本部 価値創造フロンティア研究所 フェロー
	高橋 裕介	第一三共(株)テクノロジー本部 バイオプロセス技術第二研究所長
	高山 誠司	東京大学、奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授
	玉木 秀幸	(国研)産業技術総合研究所 生命工学領域 バイオものづくり研究センター 副研究センター長
	堤 浩子	月桂冠(株)醸造部 担当部長
	馬場 健史	大阪大学 大学院医学系研究科 教授
	福田 淳二	横浜国立大学 大学院工学研究院 教授
	本田 孝祐	大阪大学 生物工学国際交流センター センター長・教授
	室田 佳恵子	大阪公立大学 大学院農学研究科 教授

＜バイオインダストリー奨励賞受賞者・選評＞

（五十音順、敬称略）

◆受賞者 1 井手口 拓郎（いでぐち たくろう）東京大学 新領域創成科学研究科 教授

研究課題名：赤外フォトサーマル顕微鏡によるラベルフリー生細胞化学イメージングの開拓

選評：受賞者は、赤外分光の回折限界を独自開発の赤外フォトサーマル顕微鏡で突破し、ビデオレート 3 次元イメージングと超高分解能観察を両立する技術確立した。生細胞内の化学情報をラベルフリーで高速可視化する基盤として、創薬・診断・環境評価への波及効果が極めて大きい。ライブセル解析の中核技術として、今後さらなる活躍が期待される研究者である。

◆受賞者 2 内田 紀之（うちだ のりゆき）東京農工大学 工学部 特任講師

研究課題名：リン脂質膜変形を利用した高機能化粧品の開発

選評：受賞者は、リン脂質膜変形という独自概念を確立し、動的な機能を付与する革新的なバイオマテリアル設計法を開発した。代表論文の多くで筆頭・責任著者として本人主導の研究展開を実証し、自ら設立したベンチャーを通じて化粧品として既に社会実装を達成している。基礎独創性と産業展開を両立する稀有な研究者であり、今後さらなる活躍が期待される。

◆受賞者 3 大上 雅史（おおうえ まさひと）東京科学大学 情報理工学院 准教授

研究課題名：モダリティを横断する創薬支援のための計算分子設計技術に関する研究

選評：受賞者は、低分子から中分子・ペプチド領域までを横断する計算分子設計技術を独自に開発し、AI 創薬の最先端を実証した。大型研究費の代表として精力的に研究を進めるとともに、自らベンチャーを立ち上げ製薬企業との共同研究も多数推進しており、研究と社会実装の両輪で成果を挙げている。バイオ×AI 分野を牽引する若手として、今後さらなる活躍が期待される研究者である。

◆受賞者 4 押木 守（おしき まもる）北海道大学 大学院工学研究院 准教授

研究課題名：Anammox 細菌の機能解明に基づくテラーメイド型窒素除去プロセスの創出と実装

選評：受賞者は、嫌気性アンモニウム酸化 (Anammox) 細菌 4 属 5 種の集積培養に世界に先駆けて成功し、菌種ごとの至適条件解析に基づくテラーメイド型窒素除去プロセスを提案した。基礎研究から実規模下水処理場への導入実績まで一貫して進めており、国内外での社会実装につなげている。持続可能な水処理技術をリードする研究者として、今後さらなる活躍が期待される。

◆受賞者 5 熊倉 直祐（くまくら なおよし）理化学研究所 環境資源科学研究センター 上級研究員

研究課題名：植物病原糸状菌アプレッソリアの膨圧発生機構の解明と病害制御標的の創出

選評：受賞者は、植物病原糸状菌の感染専用細胞アプレッソリアにおいて、細胞壁に半透膜性を付与して高膨圧を発生させる分子機構を初めて解明した。長年未解明であった感染成立の根幹過程を分子レベルで明らかにし、新たな病害制御標的を提示するとともに、新規農薬開発やバイオものづくりへの展開も期待される。極めて独創性の高い研究成果をあげており、今後も本分野を牽引する研究者である。

◆受賞者 6 齋藤 雄太朗（さいとう ゆうたろう）東京科学大学 生命理工学院 准教授

研究課題名：多価不飽和脂肪酸の固相合成法の開発と新しい抗炎症脂肪酸の発見

選評：受賞者は、従来困難とされていた多価不飽和脂肪酸の固相合成法を確立し、大規模脂質ライブラリーの構築を実現した。さらに、これを活用して抗炎症作用を有する新規脂肪酸を見出しており、脂質研究に新たな展開をもたらす成果として高く評価される。今後、産業界との連携を通じ、創薬分野への応用を切り拓くことが望まれる研究者である。

◆受賞者 7 坂本 雅行（さかもと まさゆき）京都大学 大学院生命科学研究科 准教授

研究課題名：生体細胞内シグナル計測のための高感度蛍光プローブの開発
選評：受賞者は、高感度 cAMP プローブを開発し、生体脳内における cAMP 動態の単一細胞レベルでの可視化を世界で初めて実現した。本プローブは国内外の多くの研究室で利用され、国際的な研究基盤技術として高い波及効果を有する。生命現象の解明に大きく貢献するとともに、製薬企業や光学機器メーカーとの共同研究も進展しており、基礎研究から産業応用まで幅広い展開を牽引する研究者である。

◆受賞者 8 佐藤 雄介（さとう ゆうすけ）東北大学 理学研究科 准教授

研究課題名：脂質膜構造を標的とするナノベシクル横断の解析・診断技術の創出
選評：受賞者は、高曲率脂質膜のパッキング欠損を認識するユニークな分子プローブを開発し、エクソソームなどのナノベシクルをマーカーフリーで高感度に検出する技術確立した。脂質膜の物理化学的特性に着目した新たな解析技術として、診断・創薬への応用が期待される。企業との共同研究や検出試薬キットの実用化も進展しており、今後のさらなる発展と幅広い産業展開が期待される研究者である。

◆受賞者 9 高橋 洋平（たかはし ようへい）名古屋大学 トランスフォーマティブ生命分子研究所 特任准教授

研究課題名：植物の気孔における二酸化炭素感知装置の同定とその活用
選評：受賞者は、植物の気孔における二酸化炭素感知装置を同定し、気孔閉鎖の分子機構を解明した。さらに、この仕組みを制御する低分子化合物を見出すとともに、CO ₂ 応答を改変したイネの開発にも取り組んでいる。温暖化に伴う大気 CO ₂ 濃度の上昇が進む中、農作物の生育増進や気候変動への適応技術への発展が期待される。今後も当該分野において重要な役割を果たす研究者である。

◆受賞者 10 遠山 周吾（とおやま しゅうご）藤田医科大学東京 先端医療研究センター 教授

研究課題名：代謝制御を基盤とした心筋細胞の大量製造と再生医療の実現
選評：受賞者は、代謝制御のみを用いた世界初の高純度心筋細胞の純化培養技術確立し、再生医療分野に大きな学術的ブレークスルーをもたらした。さらに、その成果を大学発ベンチャーの創業や治験の開始へと発展させるなど、学術的インパクトと社会実装の両面で極めて優れた成果を上げており、今後さらなる活躍が期待される研究者である。

◆受賞者 11 中野 祥吾（なかの しょうご）静岡県立大学 食品栄養科学部 准教授

研究課題名：進化アルゴリズム×生成 AI による高機能化タンパク質再設計基盤の確立
選評：受賞者は、AI 台頭以前からタンパク質配列デザインに国内で最も早く着手し、構造・機能相関に基づく独自の GAoptimizer 法・GARNet 法を開発した。活性・耐熱性・生産性の同時最適化を可能とし、特許出願 20 件・企業共同研究 5 件と応用面でも成果は際立っている。AI×酵素工学の基盤技術として学術・産業両面で貢献しており、今後さらなる活躍が期待される。

◆受賞者 12 PRADIPTA AMBARA（ぷらでいふた あんばら）東京科学大学 物質理工学院 助教

研究課題名：アクロレイン標的型プロドラッグ技術によるがん治療の創出と産業化への展開
選評：受賞者は、がん細胞特異的に産生されるアクロレインを利用してプロドラッグを活性化する独創的な創薬技術を開発した。マウスモデルで抗がん効果を実証するとともに、知財整備や企業連携も着実に進展している。抗体医薬の限界を補完し、併用療法にも展開可能な新たな治療戦略として高い可能性を有しており、早期の実用化とさらなる発展が期待される研究者である。

(一財) バイオインダストリー協会について

1942 年設立の酒精協会を前身とし、発酵工業協会を経て、1987 年に財団法人バイオインダストリー協会へ改組・改称し、2011 年に一般財団法人へ移行した。バイオインダストリー分野の研究開発と産業発展を産・学・官による連携によって、総合的に推進する日本唯一の組織である。バイオインダストリーに関する科学技術の進歩を通じて、バイオインダストリーおよび関連産業の発展を図り、人々の生活の質の向上に寄与するために、先端技術開発から産業化に至るまでのさまざまな場面で社会に貢献している。会員数は、企業会員 396 社、公共会員 157 団体、個人会員 498 人である。(2026 年 3 月末現在)

【本発表資料についてのお問い合わせ先】

(一財) バイオインダストリー協会 広報部

電話 : 03-6665-7950

FAX : 03-6665-7955

Email : jba.award@jba.or.jp

ホームページ : <https://www.jba.or.jp/>